

学校法人 健生学園
東日本医療専門学校

鍼灸スポーツ科学科2年生

令和7年度 シラバス

鍼灸スポーツ科学科

授業科目名	解剖生理学 I			授業形態	講義	教員	樋口 勝広		No.	17																														
科目区分	専門基礎分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	2年生																															
授業概要	解剖学は生体の正常な構造を、生理学は生体の持つ様々な機能およびその調節機構を理解するための学問であり、この2つは全ての臨床医学の根幹となる学問である。本講義では運動器系と神経系を学ぶことにより、臨床やスポーツなどの現場に必要な知識と結びつけて学んでいく。																																							
授業の到達目標	運動器と神経に関する解剖学と生理学の理解を深め、臨床やスポーツ現場などに活用ができる知識を身につける。																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 人体の構成 生理学の基礎</td> <td>第16週目 解剖学・内分泌系 生理学・内分泌</td> </tr> <tr> <td>第2週目 神経系の解剖学①</td> <td>第17週目 内分泌系の生理学①</td> </tr> <tr> <td>第3週目 神経系の解剖学②</td> <td>第18週目 内分泌系の生理学②</td> </tr> <tr> <td>第4週目 神経系の解剖学③</td> <td>第19週目 内分泌系の生理学③</td> </tr> <tr> <td>第5週目 神経系の生理学①</td> <td>第20週目 泌尿器の解剖生理学</td> </tr> <tr> <td>第6週目 神経系の生理学②</td> <td>第21週目 生殖・成長と老化</td> </tr> <tr> <td>第7週目 神経系の生理学③</td> <td>第22週目 消化器系の解剖学①</td> </tr> <tr> <td>第8週目 感覚器系の解剖学①</td> <td>第23週目 消化器系の解剖学②</td> </tr> <tr> <td>第9週目 感覚器系の解剖学②</td> <td>第24週目 消化と吸収①</td> </tr> <tr> <td>第10週目 感覚器系の生理学①</td> <td>第25週目 消化と吸収②</td> </tr> <tr> <td>第11週目 感覚器系の生理学②</td> <td>第26週目 生理学・代謝</td> </tr> <tr> <td>第12週目 筋肉の生理学</td> <td>第27週目 生理学・体温</td> </tr> <tr> <td>第13週目 運動の生理学</td> <td>第28週目 まとめ</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末試験</td> <td>第29週目 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 前期期末試験の解説</td> <td>第30週目 後期期末試験の解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>1年時の解剖学Ⅱ・生理学Ⅰ・生理学Ⅰの復習を行う。 主にプリントを配布し、パワーポイントを使用し授業を行う。 各々プリントをもとに教科書を熟読すること。 国家試験の科目でもある為、その都度復習を必ず行うこと。 欠席等での後からプリントの請求は次の授業前までに職員室にて行うこと。 自学自習については、特に大事な部分の「まとめ資料」及び問題集を配付いたします。それを中心に学習してください。</p>										第1週目 人体の構成 生理学の基礎	第16週目 解剖学・内分泌系 生理学・内分泌	第2週目 神経系の解剖学①	第17週目 内分泌系の生理学①	第3週目 神経系の解剖学②	第18週目 内分泌系の生理学②	第4週目 神経系の解剖学③	第19週目 内分泌系の生理学③	第5週目 神経系の生理学①	第20週目 泌尿器の解剖生理学	第6週目 神経系の生理学②	第21週目 生殖・成長と老化	第7週目 神経系の生理学③	第22週目 消化器系の解剖学①	第8週目 感覚器系の解剖学①	第23週目 消化器系の解剖学②	第9週目 感覚器系の解剖学②	第24週目 消化と吸収①	第10週目 感覚器系の生理学①	第25週目 消化と吸収②	第11週目 感覚器系の生理学②	第26週目 生理学・代謝	第12週目 筋肉の生理学	第27週目 生理学・体温	第13週目 運動の生理学	第28週目 まとめ	第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験	第15週目 前期期末試験の解説	第30週目 後期期末試験の解説
第1週目 人体の構成 生理学の基礎	第16週目 解剖学・内分泌系 生理学・内分泌																																							
第2週目 神経系の解剖学①	第17週目 内分泌系の生理学①																																							
第3週目 神経系の解剖学②	第18週目 内分泌系の生理学②																																							
第4週目 神経系の解剖学③	第19週目 内分泌系の生理学③																																							
第5週目 神経系の生理学①	第20週目 泌尿器の解剖生理学																																							
第6週目 神経系の生理学②	第21週目 生殖・成長と老化																																							
第7週目 神経系の生理学③	第22週目 消化器系の解剖学①																																							
第8週目 感覚器系の解剖学①	第23週目 消化器系の解剖学②																																							
第9週目 感覚器系の解剖学②	第24週目 消化と吸収①																																							
第10週目 感覚器系の生理学①	第25週目 消化と吸収②																																							
第11週目 感覚器系の生理学②	第26週目 生理学・代謝																																							
第12週目 筋肉の生理学	第27週目 生理学・体温																																							
第13週目 運動の生理学	第28週目 まとめ																																							
第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験																																							
第15週目 前期期末試験の解説	第30週目 後期期末試験の解説																																							
教科書・参考書等	<p>教科書：医歯薬出版株式会社『解剖生理学』を使用する。</p> <p>参考資料：医歯薬出版株式会社『生理学・解剖学』を使用する。</p>																																							
成績評価の方法	<p>1. 期末試験の得点 2. 出席状況および提出課題の内容 上記項目から総合的に評価し、通年成績が120点以上となった場合のみ単位を認定する。</p>																																							
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。																																							

鍼灸スポーツ科学科

授業科目名	病理学概論			授業形態	講義	教員	鈴木 亮太		No.	18
科目区分	専門基礎分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	2年生	
授業概要	1. 疾病の概念について理解する。 2. 病因の一般について理解する。 3. 各疾患の病理について理解する。									
授業の到達目標	・病因の内因、外因の分類ができ、その分類の疾患を答えることができる。 ・各病変を説明でき、その疾患例を答えることができる。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 第1章 病理学 第2週目 第2章 疾病についての考え方 第3週目 第3章 病因について① 第4週目 第3章 病因について② 第5週目 第3章 病因について③ 第6週目 第4章 循環器障害について① 第7週目 第4章 循環器障害について② 第8週目 第5章 退行性病変について① 第9週目 第6章 進行性病変について② 第10週目 第7章 炎症について① 第11週目 第8章 腫瘍について① 第12週目 第8章 腫瘍について② 第13週目 第9章 免疫異常について① 第14週目 第9章 免疫異常について② 第15週目 前期期末試験 第16週目 外因 感染症① 第17週目 外因 感染症② 第18週目 外因 感染症③ 第19週目 退行性病変 生活習慣病(代謝栄養疾患)① 第20週目 退行性病変 生活習慣病(代謝栄養疾患)② 第21週目 退行性病変 生活習慣病(代謝栄養疾患)③ 第22週目 血液系疾患(赤血球) ① 第23週目 血液系疾患(白血球・血小板)② 第24週目 血液系疾患(リンパ系)③ 第25週目 循環障害 循環器系疾患① 第26週目 循環障害 循環器系疾患② 第27週目 循環障害 循環器系疾患③ 第28週目 循環障害 循環器系疾患④ 第29週目 後期期末試験 第30週目 試験解説とまとめ (授業の方法および自学学習について) 1) 学習方法: 主にプリントを配布し、教室で授業を行う。 2) 欠席により授業の配布資料を受け取れなかった場合、次の授業開始前までに、担当教員に資料を受け取りに行くこと。 3) 各授業で必要に応じて確認テストを行う。欠席等で受けられなかった場合は、後日、担当教員から用紙を受け取り、問題を解いて担当教員からの確認を受けること。									
教科書・参考書等	教科書: 医歯薬出版「病理学概論」 参考書: メディックメディア発行「病気が見える シリーズ」 医学書院出版「系統看護学講座 微生物学」									
成績評価の方法	1. 期末試験の得点。 2. 授業態度及び出席状況内容。 上記項目から総合的に評価し、通年成績が120点以上になった場合のみ単位を認定する。 ※なお、確認テストの提出および担当教員からの合格が得られない場合は、5点減点としてその都度、期末試験から減点する。									
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。									

授業科目名	臨床医学各論 I			授業形態	講義	教員	大渡 光弘		No.	19																														
科目区分	専門基礎分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	2年生																															
授業概要	各疾病について、成因、疫学、病態生理、主要な症状、検査所見などについて学んでいきます。																																							
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・疾患の原因を説明できる。 ・疾患の症状の特徴を解剖生理学から紐解くことができる。 ・疾患を確定するための検査およびその所見を説明できる。 																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 第8章 整形外科疾患①関節疾患</td> <td>第16週目 第3章肝・胆・膵疾患 肝胆膵臓の解剖生理</td> </tr> <tr> <td>第2週目 第8章 整形外科疾患①骨疾患・骨腫瘍</td> <td>第17週目 第3章肝・胆・膵疾患 急性・慢性肝炎</td> </tr> <tr> <td>第3週目 第8章 整形外科疾患②筋・腱疾患</td> <td>第18週目 第3章肝・胆・膵疾患 肝硬変～胆石症</td> </tr> <tr> <td>第4週目 第8章 整形外科疾患②脊椎疾患</td> <td>第19週目 第3章肝・胆・膵疾患 胆嚢炎～膵臓疾患</td> </tr> <tr> <td>第5週目 第8章 整形外科疾患③脊椎疾患</td> <td>第20週目 第4章呼吸器疾患① 感染性呼吸器疾患</td> </tr> <tr> <td>第6週目 第8章 整形外科疾患④脊髄損傷 外傷</td> <td>第21週目 第4章呼吸器疾患② 閉塞性呼吸器疾患</td> </tr> <tr> <td>第7週目 第8章 整形外科疾患④その他</td> <td>第22週目 第4章呼吸器疾患③ 拘束性呼吸器疾患</td> </tr> <tr> <td>第8週目 第2章消化器疾患 口腔疾患</td> <td>第23週目 第5章腎・尿器疾患 原発性糸球体腎炎</td> </tr> <tr> <td>第9週目 第2章消化器疾患 食道疾患 胃・十二指腸疾患・胃炎</td> <td>第24週目 第5章腎・尿器疾患 腎不全～腎盂炎</td> </tr> <tr> <td>第10週目 第2章消化器疾患 慢性胃炎～十二指腸憩</td> <td>第25週目 第5章腎・尿器疾患 膀胱炎～前立腺癌</td> </tr> <tr> <td>第11週目 第2章消化器疾患 急性腸炎～大腸癌</td> <td>第26週目 第6章内分泌疾患① 下垂体疾患</td> </tr> <tr> <td>第12週目 第2章消化器疾患 イレウス～腹膜炎</td> <td>第27週目 第6章内分泌疾患② 甲状腺疾患</td> </tr> <tr> <td>第13週目 前期復習</td> <td>第28週目 第6章内分泌疾患③ 副腎疾患</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期末試験</td> <td>第29週目 後期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 試験解説まとめ</td> <td>第30週目 試験解説とまとめ</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>主にプリントを配布し、パワーポイントを使用し授業を行う。 各々プリントをもとに教科書を熟読すること。 国家試験の科目でもある為、その都度復習を必ず行うこと。 欠席等での後からプリントの請求は次の授業前までに職員室にて行うこと。 自学自習については、特に大事な部分を、「まとめ資料」として配付いたします。それを中心に学習してください。</p>										第1週目 第8章 整形外科疾患①関節疾患	第16週目 第3章肝・胆・膵疾患 肝胆膵臓の解剖生理	第2週目 第8章 整形外科疾患①骨疾患・骨腫瘍	第17週目 第3章肝・胆・膵疾患 急性・慢性肝炎	第3週目 第8章 整形外科疾患②筋・腱疾患	第18週目 第3章肝・胆・膵疾患 肝硬変～胆石症	第4週目 第8章 整形外科疾患②脊椎疾患	第19週目 第3章肝・胆・膵疾患 胆嚢炎～膵臓疾患	第5週目 第8章 整形外科疾患③脊椎疾患	第20週目 第4章呼吸器疾患① 感染性呼吸器疾患	第6週目 第8章 整形外科疾患④脊髄損傷 外傷	第21週目 第4章呼吸器疾患② 閉塞性呼吸器疾患	第7週目 第8章 整形外科疾患④その他	第22週目 第4章呼吸器疾患③ 拘束性呼吸器疾患	第8週目 第2章消化器疾患 口腔疾患	第23週目 第5章腎・尿器疾患 原発性糸球体腎炎	第9週目 第2章消化器疾患 食道疾患 胃・十二指腸疾患・胃炎	第24週目 第5章腎・尿器疾患 腎不全～腎盂炎	第10週目 第2章消化器疾患 慢性胃炎～十二指腸憩	第25週目 第5章腎・尿器疾患 膀胱炎～前立腺癌	第11週目 第2章消化器疾患 急性腸炎～大腸癌	第26週目 第6章内分泌疾患① 下垂体疾患	第12週目 第2章消化器疾患 イレウス～腹膜炎	第27週目 第6章内分泌疾患② 甲状腺疾患	第13週目 前期復習	第28週目 第6章内分泌疾患③ 副腎疾患	第14週目 前期末試験	第29週目 後期末試験	第15週目 試験解説まとめ	第30週目 試験解説とまとめ
第1週目 第8章 整形外科疾患①関節疾患	第16週目 第3章肝・胆・膵疾患 肝胆膵臓の解剖生理																																							
第2週目 第8章 整形外科疾患①骨疾患・骨腫瘍	第17週目 第3章肝・胆・膵疾患 急性・慢性肝炎																																							
第3週目 第8章 整形外科疾患②筋・腱疾患	第18週目 第3章肝・胆・膵疾患 肝硬変～胆石症																																							
第4週目 第8章 整形外科疾患②脊椎疾患	第19週目 第3章肝・胆・膵疾患 胆嚢炎～膵臓疾患																																							
第5週目 第8章 整形外科疾患③脊椎疾患	第20週目 第4章呼吸器疾患① 感染性呼吸器疾患																																							
第6週目 第8章 整形外科疾患④脊髄損傷 外傷	第21週目 第4章呼吸器疾患② 閉塞性呼吸器疾患																																							
第7週目 第8章 整形外科疾患④その他	第22週目 第4章呼吸器疾患③ 拘束性呼吸器疾患																																							
第8週目 第2章消化器疾患 口腔疾患	第23週目 第5章腎・尿器疾患 原発性糸球体腎炎																																							
第9週目 第2章消化器疾患 食道疾患 胃・十二指腸疾患・胃炎	第24週目 第5章腎・尿器疾患 腎不全～腎盂炎																																							
第10週目 第2章消化器疾患 慢性胃炎～十二指腸憩	第25週目 第5章腎・尿器疾患 膀胱炎～前立腺癌																																							
第11週目 第2章消化器疾患 急性腸炎～大腸癌	第26週目 第6章内分泌疾患① 下垂体疾患																																							
第12週目 第2章消化器疾患 イレウス～腹膜炎	第27週目 第6章内分泌疾患② 甲状腺疾患																																							
第13週目 前期復習	第28週目 第6章内分泌疾患③ 副腎疾患																																							
第14週目 前期末試験	第29週目 後期末試験																																							
第15週目 試験解説まとめ	第30週目 試験解説とまとめ																																							
教科書・参考書等	教科書：医歯薬出版「臨床医学各論」 参考書：(株)メディックメディア「病気がみえる」																																							
成績評価の方法	出席状況及び小テストや課題のクリア、期末試験の結果を総合して60%以上を合格とする。 ※小テスト及び課題のクリアがなければ、その都度2点減点とし、期末試験から引くこととする。 なお定期試験毎に点数の満たなかったものは、再試験前に指示・指導を仰ぐこと。																																							
実践的教育に関する経歴等	整形外科・鍼灸院・接骨院の勤務歴有り。																																							

鍼灸スポーツ科学科

授業科目名	臨床医学総論			授業形態	講義	教員	神谷 美香		No.	20																														
科目区分	専門基礎分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	2年生																															
授業概要	<p>各種検査法を学ぶことで疾患の概要を理解し、臨床を想定した患者対応ができるようになる。検査数値の異常から疾患を考えることができる。症候から疾患を考えることができる。治療法の種類を覚え、医療現場での情報共有ができる。患者心理を理解することができる。</p>																																							
授業の到達目標	<p>各種検査法を学ぶことで、疾患の診断、鑑別、除外診断の基礎を習得する。</p>																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%;">第1週目 ガイダンス, 診察の概要</td> <td style="width:50%;">第16週目 心臓, 腹部, 背部</td> </tr> <tr> <td>第2週目 医療面接, 視診, 触診</td> <td>第17週目 四肢, 神経系の診察—感覚検査法</td> </tr> <tr> <td>第3週目 打診, 聴診, 測定法</td> <td>第18週目 反射検査, 脳神経の検査,</td> </tr> <tr> <td>第4週目 神経系の診察</td> <td>第19週目 髄膜刺激症状, その他</td> </tr> <tr> <td>第5週目 生命徴候(バイタルサイン)の診察</td> <td>第20週目 運動機能検査—運動麻痺, 筋肉の異常</td> </tr> <tr> <td>第6週目 全身の診察—顔貌, 顔色, 精神状態</td> <td>第21週目 不随意運動, 協調運動</td> </tr> <tr> <td>第7週目 言語, 身体計測, 体型・体格</td> <td>第22週目 起立と歩行, ROM, MMT</td> </tr> <tr> <td>第8週目 栄養状態, 姿勢と体位, 歩行</td> <td>第23週目 日常生活動作, 整形外科検査法,</td> </tr> <tr> <td>第9週目 皮膚, 粘膜, 皮下組織, 爪の状態</td> <td>第24週目 救急時の診察, 女性の診察</td> </tr> <tr> <td>第10週目 リンパ節, その他の一般的状態</td> <td>第25週目 小児の診察, 高齢者の診察</td> </tr> <tr> <td>第11週目 局所の診察—頭部, 顔面, 眼</td> <td>第26週目 一般検査</td> </tr> <tr> <td>第12週目 眼, 鼻, 耳, 口腔</td> <td>第27週目 血液生化学検査</td> </tr> <tr> <td>第13週目 頸部, 胸部, 乳房, 肺・胸膜</td> <td>第28週目 生理学的検査及び画像診断の概要</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末試験</td> <td>第29週目 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 試験解説</td> <td>第30週目 試験解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) プリント, パワーポイントを使用し授業を行うことを基本とする。 2) その日の内容は各自復習する。 3) 欠席した場合は次回の授業までに配布物を取りに来ること。 4) 検査法の実技も行うので, 手足を出せて, 動きやすい服装が好ましい。 5) 日直は授業前に準備するものがないか職員室まで確認に来ること。 										第1週目 ガイダンス, 診察の概要	第16週目 心臓, 腹部, 背部	第2週目 医療面接, 視診, 触診	第17週目 四肢, 神経系の診察—感覚検査法	第3週目 打診, 聴診, 測定法	第18週目 反射検査, 脳神経の検査,	第4週目 神経系の診察	第19週目 髄膜刺激症状, その他	第5週目 生命徴候(バイタルサイン)の診察	第20週目 運動機能検査—運動麻痺, 筋肉の異常	第6週目 全身の診察—顔貌, 顔色, 精神状態	第21週目 不随意運動, 協調運動	第7週目 言語, 身体計測, 体型・体格	第22週目 起立と歩行, ROM, MMT	第8週目 栄養状態, 姿勢と体位, 歩行	第23週目 日常生活動作, 整形外科検査法,	第9週目 皮膚, 粘膜, 皮下組織, 爪の状態	第24週目 救急時の診察, 女性の診察	第10週目 リンパ節, その他の一般的状態	第25週目 小児の診察, 高齢者の診察	第11週目 局所の診察—頭部, 顔面, 眼	第26週目 一般検査	第12週目 眼, 鼻, 耳, 口腔	第27週目 血液生化学検査	第13週目 頸部, 胸部, 乳房, 肺・胸膜	第28週目 生理学的検査及び画像診断の概要	第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験	第15週目 試験解説	第30週目 試験解説
第1週目 ガイダンス, 診察の概要	第16週目 心臓, 腹部, 背部																																							
第2週目 医療面接, 視診, 触診	第17週目 四肢, 神経系の診察—感覚検査法																																							
第3週目 打診, 聴診, 測定法	第18週目 反射検査, 脳神経の検査,																																							
第4週目 神経系の診察	第19週目 髄膜刺激症状, その他																																							
第5週目 生命徴候(バイタルサイン)の診察	第20週目 運動機能検査—運動麻痺, 筋肉の異常																																							
第6週目 全身の診察—顔貌, 顔色, 精神状態	第21週目 不随意運動, 協調運動																																							
第7週目 言語, 身体計測, 体型・体格	第22週目 起立と歩行, ROM, MMT																																							
第8週目 栄養状態, 姿勢と体位, 歩行	第23週目 日常生活動作, 整形外科検査法,																																							
第9週目 皮膚, 粘膜, 皮下組織, 爪の状態	第24週目 救急時の診察, 女性の診察																																							
第10週目 リンパ節, その他の一般的状態	第25週目 小児の診察, 高齢者の診察																																							
第11週目 局所の診察—頭部, 顔面, 眼	第26週目 一般検査																																							
第12週目 眼, 鼻, 耳, 口腔	第27週目 血液生化学検査																																							
第13週目 頸部, 胸部, 乳房, 肺・胸膜	第28週目 生理学的検査及び画像診断の概要																																							
第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験																																							
第15週目 試験解説	第30週目 試験解説																																							
教科書・参考書等	<p>「臨床医学総論」医歯薬出版株式会社 および 配布プリント</p>																																							
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 各学期で実施する期末試験の得点。 2) 小テスト, 出席状況, 課題提出など。 <p>上記の項目から総合的に評価。通年の成績が60%以上で単位を認定。</p>																																							
実践的教育に関する経歴等	<p>①鍼師・灸師・あん摩マッサージ指圧師 ②鍼灸マッサージ教員免許 ③鍼灸マッサージ院勤務</p>																																							

授業科目名	リハビリテーション医学			授業形態	講義	教員	南洞 大宥		No.	21																														
科目区分	専門基礎分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	2年生																															
授業概要	リハビリテーションの幅広い概念を把握し、各疾患に対するリハビリテーションに必要な知識を理解する。																																							
授業の到達目標	現在リハビリテーション医学の知識は、治療院・介護施設・スポーツトレーナーなど、幅広い分野で求められている。リハビリテーションの概念、特徴を理解することにより様々な現場に対応できる知識・技術の基本となるものについて学習していく。																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 リハビリテーション医学・医療①</td> <td>第16週目 関節リウマチ</td> </tr> <tr> <td>第2週目 リハビリテーション医学・医療②</td> <td>第17週目 脳血管障害①</td> </tr> <tr> <td>第3週目 診断・評価学①</td> <td>第18週目 脳血管障害②</td> </tr> <tr> <td>第4週目 診断・評価学②</td> <td>第19週目 脳血管障害③</td> </tr> <tr> <td>第5週目 運動療法と物理療法①</td> <td>第20週目 脳血管障害④</td> </tr> <tr> <td>第6週目 運動療法と物理療法②</td> <td>第21週目 パーキンソン病</td> </tr> <tr> <td>第7週目 作業療法と言語聴覚療法</td> <td>第22週目 呼吸器疾患①</td> </tr> <tr> <td>第8週目 補装具、自助具、福祉用具</td> <td>第23週目 呼吸器疾患②</td> </tr> <tr> <td>第9週目 切断</td> <td>第24週目 虚血性心疾患①</td> </tr> <tr> <td>第10週目 脊髄損傷①</td> <td>第25週目 虚血性心疾患②</td> </tr> <tr> <td>第11週目 脊髄損傷②</td> <td>第26週目 高齢者に多くみられる疾患①</td> </tr> <tr> <td>第12週目 脊髄損傷③</td> <td>第27週目 高齢者に多くみられる疾患②</td> </tr> <tr> <td>第13週目 脊髄損傷④</td> <td>第28週目 小児疾患</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末試験</td> <td>第29週目 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 試験解説</td> <td>第30週目 試験解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)教科書を使用し授業を行うことを基本とする。 2)教科書の第Ⅰ部第2章の運動学は運動学の授業で行う。 3)教科書の第Ⅰ部第3章の形態計測、ROM、MMT、徒手検査法は臨床鍼灸学Ⅳの授業で行う。 4)教科書の第Ⅱ部第1章整形外科疾患の脊髄損傷・切断・関節リウマチ以外は東洋医学臨床論Ⅲの授業で行う。 5)教科書の第Ⅱ部第2章神経疾患の脳血管障害・パーキンソン病、第Ⅱ部第3章内部障害の虚血性心疾患・呼吸器疾患以外は臨床医学各論Ⅰ・Ⅱの授業で行う。 6)教科書の第Ⅱ部第4章がんは臨床医学各論Ⅰ・Ⅱの授業で行う。 										第1週目 リハビリテーション医学・医療①	第16週目 関節リウマチ	第2週目 リハビリテーション医学・医療②	第17週目 脳血管障害①	第3週目 診断・評価学①	第18週目 脳血管障害②	第4週目 診断・評価学②	第19週目 脳血管障害③	第5週目 運動療法と物理療法①	第20週目 脳血管障害④	第6週目 運動療法と物理療法②	第21週目 パーキンソン病	第7週目 作業療法と言語聴覚療法	第22週目 呼吸器疾患①	第8週目 補装具、自助具、福祉用具	第23週目 呼吸器疾患②	第9週目 切断	第24週目 虚血性心疾患①	第10週目 脊髄損傷①	第25週目 虚血性心疾患②	第11週目 脊髄損傷②	第26週目 高齢者に多くみられる疾患①	第12週目 脊髄損傷③	第27週目 高齢者に多くみられる疾患②	第13週目 脊髄損傷④	第28週目 小児疾患	第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験	第15週目 試験解説	第30週目 試験解説
第1週目 リハビリテーション医学・医療①	第16週目 関節リウマチ																																							
第2週目 リハビリテーション医学・医療②	第17週目 脳血管障害①																																							
第3週目 診断・評価学①	第18週目 脳血管障害②																																							
第4週目 診断・評価学②	第19週目 脳血管障害③																																							
第5週目 運動療法と物理療法①	第20週目 脳血管障害④																																							
第6週目 運動療法と物理療法②	第21週目 パーキンソン病																																							
第7週目 作業療法と言語聴覚療法	第22週目 呼吸器疾患①																																							
第8週目 補装具、自助具、福祉用具	第23週目 呼吸器疾患②																																							
第9週目 切断	第24週目 虚血性心疾患①																																							
第10週目 脊髄損傷①	第25週目 虚血性心疾患②																																							
第11週目 脊髄損傷②	第26週目 高齢者に多くみられる疾患①																																							
第12週目 脊髄損傷③	第27週目 高齢者に多くみられる疾患②																																							
第13週目 脊髄損傷④	第28週目 小児疾患																																							
第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験																																							
第15週目 試験解説	第30週目 試験解説																																							
教科書・参考書等	東洋療法学校協会編「新版 リハビリテーション医学」																																							
成績評価の方法	各学期で実施する期末試験の総得点120点以上で合格とする。																																							
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。																																							

授業科目名	はりきゅう理論Ⅱ			授業形態	講義	教員	善積 紗英子		No.	22
科目区分	専門分野	単位	1	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	2年生	
授業概要	鍼灸治療の効果発現に関わる治効機序や関連する学説について学ぶ。									
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 治効機序を理解する。 2. 関連学説を理解する。 3. 鍼灸刺激に対してどのような反応が起こるか、エビデンスに基づく内容を把握する。 									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 刺激の伝わり方</p> <p>第2週目 鍼鎮痛①</p> <p>第3週目 鍼鎮痛②</p> <p>第4週目 鎮痛に関する学説</p> <p>第5週目 体性反射</p> <p>第6週目 運動系と鍼</p> <p>第7週目 循環系と鍼灸①</p> <p>第8週目 循環系と鍼灸②</p> <p>第9週目 脊髄反射と上脊髄反射</p> <p>第10週目 生体防御系と鍼灸</p> <p>第11週目 灸治療の効果と血液について</p> <p>第12週目 消化器系と鍼、泌尿器系と鍼</p> <p>第13週目 リラクゼーションと鍼灸、鍼灸治療関連学説</p> <p>第14週目 期末試験</p> <p>第15週目 期末試験解説</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>学習方法:プリントを配布し授業を行う。 欠席等での後からプリントの請求は次の授業前までに職員室にて行うこと。 単位時間内に終わらなかった場合には追加講義を行う。</p>									
教科書・参考書等	医道の日本社の『はりきゅう理論 第3版』を使用する。									
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 期末試験の成績。 2) 小テスト 欠席等によって未受験の小テストは各期期末試験までに受験すること。 未受験の小テスト1回につき3点減点する。 小テストの合格基準はその都度案内し、合格者への加点あるいは不合格者には再試験を受験してもらう。 上記項目より総合的に評価し、半期成績が60点以上になった場合のみ単位を認定する。 									
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。									

授業科目名	東洋医学概論Ⅱ			授業形態	講義	教員	善積 紗英子		No.	23
科目区分	専門分野	単位	1	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	2年生	
授業概要	1年次に学んだ基礎をもとに、東洋医学的病気(弁証)と診断(四診)について学ぶ。									
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臓腑弁証を理解する。 2. 東洋医学的診断方法(四診)について理解する。 									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 八綱弁証、気血津液弁証、陰陽弁証</p> <p>第2週目 臓腑弁証 心</p> <p>第3週目 臓腑弁証 腎</p> <p>第4週目 臓腑弁証 脾胃①</p> <p>第5週目 臓腑弁証 脾胃②</p> <p>第6週目 臓腑弁証 肺</p> <p>第7週目 臓腑弁証 肝①</p> <p>第8週目 臓腑弁証 肝②</p> <p>第9週目 臓腑弁証 複合弁証①</p> <p>第10週目 臓腑弁証 複合弁証②</p> <p>第11週目 六淫、六経、衛気営血、三焦弁証</p> <p>第12週目 四診①</p> <p>第13週目 四診②</p> <p>第14週目 期末試験</p> <p>第15週目 期末試験の解説</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適宜、授業内で参考資料を配布する。 ・授業を欠席した場合、次の授業までに受けていない分の授業プリントを自ら取りにくること。 									
教科書・参考書等	『新版 東洋医学概論』を使用する。									
成績評価の方法	期末試験の成績が60点以上を合格とする。									
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。									

授業科目名	経絡経穴概論Ⅱ(穴性学)			授業形態	講義	教員	南洞 大有		No.	24
科目区分	専門分野	単位	1	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	2年生	
授業概要	1. 主に五俞穴・五要穴を中心に経穴の特性を学ぶ。 2. 各疾患の特効穴や弁証取穴など総合的に学ぶ。									
授業の到達目標	1. 十四経(十二正経及び督脈任脈)における主な経穴の穴性を学ぶ。 2. 東洋医学的治療経穴が自分で選択できるようになることを目標とする。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 五俞穴の穴性(難経六十八難) 第2週目 五俞穴の穴性(難経六十九難) 第3週目 五要穴の穴性 第4週目 配穴法(原絡、俞原、俞募、募合、郄募) 第5週目 四総穴、八会穴、奇経八脈の穴性 第6週目 気血津液弁証の虚証への治法と穴性 第7週目 気血津液弁証の実証への治法と穴性 第8週目 外感表証への治法と穴性 第9週目 臓腑の虚証への治法と穴性 第10週目 臓腑弁証の臓の実証への治法と穴性 第11週目 臓腑弁証の腑の実証への治法と穴性 第12週目 虚実挟雑証への治法と穴性 第13週目 複合弁証への治法と穴性 第14週目 期末試験 第15週目 期末試験の解説 (授業の方法および自学学習について) ・授業内で参照資料は配布する。									
教科書・参考書等	教科書: 東洋療法学校協会「新版 経絡経穴概論」「新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)」									
成績評価の方法	期末試験の成績が60点以上を合格とする。									
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。									

鍼灸スポーツ科学科

授業科目名	東洋医学臨床論 I			授業形態	講義	教員	南洞 大有		No.	25																														
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	2年生																															
授業概要	<p>1. 東洋医学の考えに基づいた各疾患の分類を学ぶ。 教科書に記載されている弁証を丸暗記するのではなく、弁証を自分の頭で考えられるようになるための演習中心に講義する。</p> <p>2. 各疾患の治療穴を各自が選穴するための基礎演習をおこなう。</p>																																							
授業の到達目標	<p>1. 各疾患の東洋医学的観点からの治療法を学ぶ。</p> <p>2. 東洋医学的な病態の見方および弁証論治について学び、実際の臨床につなげていく思考回路を作ること为目标とする。</p>																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%;">第1週目 頭痛の東洋医学的考え方</td> <td style="width:50%;">第16週目 便秘・下痢の東洋医学的考え方</td> </tr> <tr> <td>第2週目 顔面痛の東洋医学的考え方</td> <td>第17週目 月経異常の東洋医学的考え方</td> </tr> <tr> <td>第3週目 顔面麻痺の東洋医学的考え方</td> <td>第18週目 排尿障害の東洋医学的考え方</td> </tr> <tr> <td>第4週目 歯痛の東洋医学的考え方</td> <td>第19週目 EDの東洋医学的考え方</td> </tr> <tr> <td>第5週目 眼性疲労の東洋医学的考え方</td> <td>第20週目 高・低血圧症の東洋医学的考え方</td> </tr> <tr> <td>第6週目 鼻閉・鼻汁の東洋医学的考え方</td> <td>第21週目 食欲不振の東洋医学的考え方</td> </tr> <tr> <td>第7週目 脱毛症の東洋医学的考え方</td> <td>第22週目 肥満の東洋医学的考え方</td> </tr> <tr> <td>第8週目 めまいの東洋医学的考え方</td> <td>第23週目 発熱の東洋医学的考え方</td> </tr> <tr> <td>第9週目 耳鳴り・難聴の東洋医学的考え方</td> <td>第24週目 のぼせ・冷えの東洋医学的考え方</td> </tr> <tr> <td>第10週目 咳嗽・喘息の東洋医学的考え方</td> <td>第25週目 不眠の東洋医学的考え方</td> </tr> <tr> <td>第11週目 胸痛の東洋医学的考え方</td> <td>第26週目 疲労・倦怠の東洋医学的考え方</td> </tr> <tr> <td>第12週目 腹痛の東洋医学的考え方</td> <td>第27週目 発疹の東洋医学的考え方</td> </tr> <tr> <td>第13週目 悪心・嘔吐の東洋医学的考え方</td> <td>第28週目 小児症状の東洋医学的考え方</td> </tr> <tr> <td>第14週目 期末試験</td> <td>第29週目 期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 期末試験の解説</td> <td>第30週目 期末試験の解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>・適宜、授業内で参考資料を配布する。</p>										第1週目 頭痛の東洋医学的考え方	第16週目 便秘・下痢の東洋医学的考え方	第2週目 顔面痛の東洋医学的考え方	第17週目 月経異常の東洋医学的考え方	第3週目 顔面麻痺の東洋医学的考え方	第18週目 排尿障害の東洋医学的考え方	第4週目 歯痛の東洋医学的考え方	第19週目 EDの東洋医学的考え方	第5週目 眼性疲労の東洋医学的考え方	第20週目 高・低血圧症の東洋医学的考え方	第6週目 鼻閉・鼻汁の東洋医学的考え方	第21週目 食欲不振の東洋医学的考え方	第7週目 脱毛症の東洋医学的考え方	第22週目 肥満の東洋医学的考え方	第8週目 めまいの東洋医学的考え方	第23週目 発熱の東洋医学的考え方	第9週目 耳鳴り・難聴の東洋医学的考え方	第24週目 のぼせ・冷えの東洋医学的考え方	第10週目 咳嗽・喘息の東洋医学的考え方	第25週目 不眠の東洋医学的考え方	第11週目 胸痛の東洋医学的考え方	第26週目 疲労・倦怠の東洋医学的考え方	第12週目 腹痛の東洋医学的考え方	第27週目 発疹の東洋医学的考え方	第13週目 悪心・嘔吐の東洋医学的考え方	第28週目 小児症状の東洋医学的考え方	第14週目 期末試験	第29週目 期末試験	第15週目 期末試験の解説	第30週目 期末試験の解説
第1週目 頭痛の東洋医学的考え方	第16週目 便秘・下痢の東洋医学的考え方																																							
第2週目 顔面痛の東洋医学的考え方	第17週目 月経異常の東洋医学的考え方																																							
第3週目 顔面麻痺の東洋医学的考え方	第18週目 排尿障害の東洋医学的考え方																																							
第4週目 歯痛の東洋医学的考え方	第19週目 EDの東洋医学的考え方																																							
第5週目 眼性疲労の東洋医学的考え方	第20週目 高・低血圧症の東洋医学的考え方																																							
第6週目 鼻閉・鼻汁の東洋医学的考え方	第21週目 食欲不振の東洋医学的考え方																																							
第7週目 脱毛症の東洋医学的考え方	第22週目 肥満の東洋医学的考え方																																							
第8週目 めまいの東洋医学的考え方	第23週目 発熱の東洋医学的考え方																																							
第9週目 耳鳴り・難聴の東洋医学的考え方	第24週目 のぼせ・冷えの東洋医学的考え方																																							
第10週目 咳嗽・喘息の東洋医学的考え方	第25週目 不眠の東洋医学的考え方																																							
第11週目 胸痛の東洋医学的考え方	第26週目 疲労・倦怠の東洋医学的考え方																																							
第12週目 腹痛の東洋医学的考え方	第27週目 発疹の東洋医学的考え方																																							
第13週目 悪心・嘔吐の東洋医学的考え方	第28週目 小児症状の東洋医学的考え方																																							
第14週目 期末試験	第29週目 期末試験																																							
第15週目 期末試験の解説	第30週目 期末試験の解説																																							
教科書・参考書等	<p>教科書: 東洋療法学校協会「新版 経絡経穴概論」「新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)」 「新版 東洋医学概論」</p>																																							
成績評価の方法	<p>期末試験の通年成績が120点以上を合格とする。</p>																																							
実践的教育に関する経歴等	<p>鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。</p>																																							

鍼灸スポーツ科学科

授業科目名	東洋医学臨床論Ⅱ			授業形態	講義	教員	鈴木 亮太		No.	26																														
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	2年生																															
授業概要	<p>1. 現代医学の考えに基づいた各疾患の病態、治療法を学ぶ。 2. 現代医学的な鍼灸治療法のアプローチができるように学習していく。</p>																																							
授業の到達目標	<p>1. 鍼灸治療の適応・不適応について学習し、各疾患の現代医学の病態を理解する。 2. 各疾患ごとの病態を元に適切な治療穴を選穴できるようになる。</p>																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 現代医学的思考方 治療原則・治療計画</td> <td>第16週目 月経異常・性器出血・帯下(現代医学)</td> </tr> <tr> <td>第2週目 頭痛(現代医学)</td> <td>第17週目 不妊症・骨盤位・つわり(現代医学)</td> </tr> <tr> <td>第3週目 顔面痛・顔面麻痺(現代医学)</td> <td>第18週目 乳汁分泌不全・脱毛(現代医学)</td> </tr> <tr> <td>第4週目 歯痛・眼精疲労(現代医学)</td> <td>第19週目 排尿障害・ED(現代医学)</td> </tr> <tr> <td>第5週目 鼻閉・鼻汁(現代医学)</td> <td>第20週目 血圧異常(現代医学)</td> </tr> <tr> <td>第6週目 めまい(現代医学)</td> <td>第21週目 浮腫・出血傾向(現代医学)</td> </tr> <tr> <td>第7週目 耳鳴り・難聴(現代医学)</td> <td>第22週目 発熱(現代医学)</td> </tr> <tr> <td>第8週目 咳嗽・喀痰(現代医学)</td> <td>第23週目 のぼせと冷え(現代医学)</td> </tr> <tr> <td>第9週目 胸痛・呼吸困難・動悸・息切れ(現代医学)</td> <td>第24週目 睡眠障害(現代医学)</td> </tr> <tr> <td>第10週目 腹痛(現代医学)</td> <td>第25週目 疲労と倦怠・気分障害(現代医学)</td> </tr> <tr> <td>第11週目 便秘と下痢(現代医学)</td> <td>第26週目 痒痒感(痒み)・発疹・脱毛症(現代医学)</td> </tr> <tr> <td>第12週目 悪心・嘔吐(現代医学)</td> <td>第27週目 小児・老年特有の症状(現代医学)</td> </tr> <tr> <td>第13週目 食欲不振・やせ(るい瘦)(現代医学)</td> <td>第28週目 歩行異常(現代医学)</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末試験</td> <td>第29週目 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 肥満・口渇(現代医学)</td> <td>第30週目 試験解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>1)学習方法:主にプリントを配布し、教室で授業を行う。 2)欠席により授業の配布資料を受け取れなかった場合、次の授業開始前までに、担当教員に資料を受け取りに行くこと。 3)各授業で必要に応じて確認テストを行う。欠席等で受けられなかった場合は、後日、担当教員から用紙を受け取り、問題を解いて担当教員からの確認を受けること。</p>										第1週目 現代医学的思考方 治療原則・治療計画	第16週目 月経異常・性器出血・帯下(現代医学)	第2週目 頭痛(現代医学)	第17週目 不妊症・骨盤位・つわり(現代医学)	第3週目 顔面痛・顔面麻痺(現代医学)	第18週目 乳汁分泌不全・脱毛(現代医学)	第4週目 歯痛・眼精疲労(現代医学)	第19週目 排尿障害・ED(現代医学)	第5週目 鼻閉・鼻汁(現代医学)	第20週目 血圧異常(現代医学)	第6週目 めまい(現代医学)	第21週目 浮腫・出血傾向(現代医学)	第7週目 耳鳴り・難聴(現代医学)	第22週目 発熱(現代医学)	第8週目 咳嗽・喀痰(現代医学)	第23週目 のぼせと冷え(現代医学)	第9週目 胸痛・呼吸困難・動悸・息切れ(現代医学)	第24週目 睡眠障害(現代医学)	第10週目 腹痛(現代医学)	第25週目 疲労と倦怠・気分障害(現代医学)	第11週目 便秘と下痢(現代医学)	第26週目 痒痒感(痒み)・発疹・脱毛症(現代医学)	第12週目 悪心・嘔吐(現代医学)	第27週目 小児・老年特有の症状(現代医学)	第13週目 食欲不振・やせ(るい瘦)(現代医学)	第28週目 歩行異常(現代医学)	第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験	第15週目 肥満・口渇(現代医学)	第30週目 試験解説
第1週目 現代医学的思考方 治療原則・治療計画	第16週目 月経異常・性器出血・帯下(現代医学)																																							
第2週目 頭痛(現代医学)	第17週目 不妊症・骨盤位・つわり(現代医学)																																							
第3週目 顔面痛・顔面麻痺(現代医学)	第18週目 乳汁分泌不全・脱毛(現代医学)																																							
第4週目 歯痛・眼精疲労(現代医学)	第19週目 排尿障害・ED(現代医学)																																							
第5週目 鼻閉・鼻汁(現代医学)	第20週目 血圧異常(現代医学)																																							
第6週目 めまい(現代医学)	第21週目 浮腫・出血傾向(現代医学)																																							
第7週目 耳鳴り・難聴(現代医学)	第22週目 発熱(現代医学)																																							
第8週目 咳嗽・喀痰(現代医学)	第23週目 のぼせと冷え(現代医学)																																							
第9週目 胸痛・呼吸困難・動悸・息切れ(現代医学)	第24週目 睡眠障害(現代医学)																																							
第10週目 腹痛(現代医学)	第25週目 疲労と倦怠・気分障害(現代医学)																																							
第11週目 便秘と下痢(現代医学)	第26週目 痒痒感(痒み)・発疹・脱毛症(現代医学)																																							
第12週目 悪心・嘔吐(現代医学)	第27週目 小児・老年特有の症状(現代医学)																																							
第13週目 食欲不振・やせ(るい瘦)(現代医学)	第28週目 歩行異常(現代医学)																																							
第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験																																							
第15週目 肥満・口渇(現代医学)	第30週目 試験解説																																							
教科書・参考書等	<p>教科書:新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編) 参考図書:文光堂「鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ」</p>																																							
成績評価の方法	<p>1. 期末試験の得点。 2. 授業態度及び出席状況内容。 上記項目から総合的に評価し、通年成績が120点以上になった場合のみ単位を認定する。</p>																																							
実践的教育に関する経歴等	<p>鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。</p>																																							

授業科目名	臨床はりきゅう学Ⅱ(筋と経穴)			授業形態	講義	教員	大渡 光弘		No.	27																														
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	2年生																															
授業概要	筋肉の触診法を学び、それに該当する経穴を取穴する。																																							
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・筋肉の起始停止、作用、神経を答えることができる。 ・各筋肉を触診できる。 ・各筋肉に該当する経穴を取穴できる。 																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 大腿部の筋肉と経穴①</td> <td>第16週目 上腕の筋肉と経穴</td> </tr> <tr> <td>第2週目 大腿部の筋肉と経穴②</td> <td>第17週目 前腕の筋肉と経穴①</td> </tr> <tr> <td>第3週目 大腿部の筋肉と経穴③</td> <td>第18週目 前腕の筋肉と経穴②</td> </tr> <tr> <td>第4週目 大腿部の筋肉と経穴④</td> <td>第19週目 前腕の筋肉と経穴③</td> </tr> <tr> <td>第5週目 下腿部の筋肉と経穴①</td> <td>第20週目 手部の筋肉と経穴</td> </tr> <tr> <td>第6週目 下腿部の筋肉と経穴②</td> <td>第21週目 頸部の経穴①</td> </tr> <tr> <td>第7週目 下腿部の筋肉と経穴③</td> <td>第22週目 頸部の経穴②</td> </tr> <tr> <td>第8週目 下腿部の筋肉と経穴④</td> <td>第23週目 肩部の筋肉と経穴①</td> </tr> <tr> <td>第9週目 足部の筋肉と経穴①</td> <td>第24週目 肩部の筋肉と経穴②</td> </tr> <tr> <td>第10週目 足部の筋肉と経穴②</td> <td>第25週目 背部の筋肉と経穴①</td> </tr> <tr> <td>第11週目 下肢のまとめ①</td> <td>第26週目 背部の筋肉と経穴②</td> </tr> <tr> <td>第12週目 下肢のまとめ②</td> <td>第27週目 上肢のまとめ①</td> </tr> <tr> <td>第13週目 下肢のまとめ③</td> <td>第28週目 上肢のまとめ②</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末試験</td> <td>第29週目 前期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 試験解説</td> <td>第30週目 試験解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>1)プリントを配布し、授業を行う。 2)部位により、露出しやように衣服を考慮すること。</p>										第1週目 大腿部の筋肉と経穴①	第16週目 上腕の筋肉と経穴	第2週目 大腿部の筋肉と経穴②	第17週目 前腕の筋肉と経穴①	第3週目 大腿部の筋肉と経穴③	第18週目 前腕の筋肉と経穴②	第4週目 大腿部の筋肉と経穴④	第19週目 前腕の筋肉と経穴③	第5週目 下腿部の筋肉と経穴①	第20週目 手部の筋肉と経穴	第6週目 下腿部の筋肉と経穴②	第21週目 頸部の経穴①	第7週目 下腿部の筋肉と経穴③	第22週目 頸部の経穴②	第8週目 下腿部の筋肉と経穴④	第23週目 肩部の筋肉と経穴①	第9週目 足部の筋肉と経穴①	第24週目 肩部の筋肉と経穴②	第10週目 足部の筋肉と経穴②	第25週目 背部の筋肉と経穴①	第11週目 下肢のまとめ①	第26週目 背部の筋肉と経穴②	第12週目 下肢のまとめ②	第27週目 上肢のまとめ①	第13週目 下肢のまとめ③	第28週目 上肢のまとめ②	第14週目 前期期末試験	第29週目 前期期末試験	第15週目 試験解説	第30週目 試験解説
第1週目 大腿部の筋肉と経穴①	第16週目 上腕の筋肉と経穴																																							
第2週目 大腿部の筋肉と経穴②	第17週目 前腕の筋肉と経穴①																																							
第3週目 大腿部の筋肉と経穴③	第18週目 前腕の筋肉と経穴②																																							
第4週目 大腿部の筋肉と経穴④	第19週目 前腕の筋肉と経穴③																																							
第5週目 下腿部の筋肉と経穴①	第20週目 手部の筋肉と経穴																																							
第6週目 下腿部の筋肉と経穴②	第21週目 頸部の経穴①																																							
第7週目 下腿部の筋肉と経穴③	第22週目 頸部の経穴②																																							
第8週目 下腿部の筋肉と経穴④	第23週目 肩部の筋肉と経穴①																																							
第9週目 足部の筋肉と経穴①	第24週目 肩部の筋肉と経穴②																																							
第10週目 足部の筋肉と経穴②	第25週目 背部の筋肉と経穴①																																							
第11週目 下肢のまとめ①	第26週目 背部の筋肉と経穴②																																							
第12週目 下肢のまとめ②	第27週目 上肢のまとめ①																																							
第13週目 下肢のまとめ③	第28週目 上肢のまとめ②																																							
第14週目 前期期末試験	第29週目 前期期末試験																																							
第15週目 試験解説	第30週目 試験解説																																							
教科書・参考書等	解剖学・経絡経穴概論 医歯薬出版株式会社 および 配布プリント																																							
成績評価の方法	1)各学期で実施する期末試験の得点。																																							
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院、接骨院、整形外科に勤務																																							

授業科目名	臨床はりきゅう学Ⅲ(生体観察学含む)			授業形態	講義	教員	神谷 美香		No.	28
科目区分	専門分野	単位	1	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	2年生	
授業概要	<p>体表観察上の個人差を発見できるようになる。 皮膚の下にある各器官を体表から触知し、その構造をイメージできるようになる。 筋・神経・血管などの位置が皮膚上から把握できるようになる。 正常な人体の構造を学ぶことで異常な状態を知る上での基盤を構築する。</p>									
授業の到達目標	<p>体表から見た身体の仕組みを学習し、その特徴を理解することができるようになる。</p>									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 ガイダンス,触擦の基礎 第2週目 肩甲骨,鎖骨,上腕骨,橈骨,尺骨 第3週目 手根骨,指骨,上肢に関わる靭帯 第4週目 肩甲上腕,胸郭,肘,手,指関節に関わる筋 第5週目 肩甲上腕,胸郭,肘,手,指関節に関わる筋 第6週目 骨盤,大腿骨,膝関節周辺,足関節 第7週目 スカルパ三角,膝靭帯,足靭帯 第8週目 股関節に関わる筋 第9週目 股関節に関わる筋 第10週目 関節,足関節に関わる筋 第11週目 胸郭 第12週目 脊柱 第13週目 脊柱 第14週目 後期期末試験 第15週目 試験解説</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>1)プリント, 模型を使用し授業を行うことを基本とする。 2)その日の内容は各自復習する。 3)欠席した場合は次回の授業までに配布物を取りに来ること。 4)遅刻は3回で1回の欠席とする。*感染症などの特別な場合を除く。 5)実技授業なので, 手足や背部, 腹部などをだすことを出しやすいのが好ましい。</p>									
教科書・参考書等	配布プリント									
成績評価の方法	<p>1)各学期で実施する期末試験の得点。 2)出席状況, 課題提出など。 上記の項目から総合的に評価。通年の成績が60%以上で単位を認定。</p>									
実践的教育に関する経歴等	<p>①鍼師・灸師・あん摩マッサージ指圧師 ②鍼灸マッサージ教員免許 ③鍼灸マッサージ院勤務</p>									

授業科目名	臨床はりきゅう学Ⅳ(あはきの適応を含む)			授業形態	講義	教員	南洞 大宥		No.	29
科目区分	専門分野	単位	1	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	2年生	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・各疾患の診察法を学ぶ。 ・診察法のなかで、適応・不適応をしっかりと鑑別できるよう学ぶ。 									
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各疾患別の医療面接での聴取のポイントと徒手検査法ができるようになる。 ・不適応を除外する問診法、徒手検査法を行うことができる。 									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 不適応徴候①</p> <p>第2週目 不適応徴候②</p> <p>第3週目 上肢痛の診察・検査①</p> <p>第4週目 上肢痛の診察・検査②</p> <p>第5週目 上肢痛の診察・検査③</p> <p>第6週目 上肢痛の診察・検査④</p> <p>第7週目 腰下肢痛の診察・検査①</p> <p>第8週目 腰下肢痛の診察・検査②</p> <p>第9週目 腰下肢痛の診察・検査③</p> <p>第10週目 腰下肢痛の診察・検査④</p> <p>第11週目 膝の診察・検査①</p> <p>第12週目 膝の診察・検査②</p> <p>第13週目 膝の診察・検査③</p> <p>第14週目 診察の評価</p> <p>第15週目 期末試験</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各疾患の病態や特徴的な症状の説明(教室) ・検査法の実技(実技) 									
教科書・参考書等	<p><参考書></p> <p>必要に応じてプリントを配布する。</p>									
成績評価の方法	<p>期末試験の成績が60点以上を合格とする。</p>									
実践的教育に関する経歴等	<p>鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。</p>									

鍼灸スポーツ科学科

授業科目名	応用はりきゅう実技 I			授業形態	講義	教員	神谷 美香		No.	30																														
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	2年生																															
授業概要	鍼治療には大きく分けて経絡治療、中医学的治療、現代医学的治療があるが、この授業では神経や筋、骨をターゲットとし、西洋医学的診断をもとに鍼治療を行う現代医学的治療を学ぶ。																																							
授業の到達目標	各種検査法、疾患の診断、鑑別、除外診断の基礎と刺鍼の基礎を臨床で活かす方法を習得する。疾患に対する治療法を修得する。低周波通電の使い方を修得する。																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>1週目 ガイダンス, タオル, 危険部位刺鍼</td> <td>16週目 徒手検査, 背部治療① パルス</td> </tr> <tr> <td>2週目 徒手検査, 肩治療① パルス</td> <td>17週目 徒手検査, 背部治療② 木下式</td> </tr> <tr> <td>3週目 徒手検査, 肩治療② パルス</td> <td>18週目 徒手検査, 上肢治療① パルス</td> </tr> <tr> <td>4週目 徒手検査, 肩治療③ 木下式</td> <td>19週目 徒手検査, 上肢治療② 木下式</td> </tr> <tr> <td>5週目 徒手検査, 頸治療① パルス</td> <td>20週目 三叉神経痛</td> </tr> <tr> <td>6週目 徒手検査, 頸治療② 木下式</td> <td>21週目 頸椎症, 胸郭出口症候群</td> </tr> <tr> <td>7週目 徒手検査, 腰治療① パルス</td> <td>22週目 脊柱管狭窄症, ヘルニア</td> </tr> <tr> <td>8週目 徒手検査, 腰下肢治療② パルス</td> <td>23週目 坐骨神経痛</td> </tr> <tr> <td>9週目 徒手検査, 腰治療③ 木下式</td> <td>24週目 特殊鍼法 円皮鍼</td> </tr> <tr> <td>10週目 徒手検査, 腰下肢治療④ 木下式</td> <td>25週目 特殊鍼法 運動鍼</td> </tr> <tr> <td>11週目 徒手検査, 膝治療① パルス</td> <td>26週目 特殊鍼法 頭皮鍼</td> </tr> <tr> <td>12週目 徒手検査, 膝治療② パルス</td> <td>27週目 特殊鍼法</td> </tr> <tr> <td>13週目 徒手検査, 試験概要</td> <td>28週目 試験概要</td> </tr> <tr> <td>14週目 前期末試験</td> <td>29週目 後期末試験</td> </tr> <tr> <td>15週目 試験解説, 膝治療③ 木下式</td> <td>30週目 試験解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)プリントを使用し実技室にて授業を行うことを基本とする。 2)その日の内容は各自復習する。 3)欠席した場合は次回の授業までにボックス内にある配布物を確認。 4)遅刻は3回で1回の欠席とする。*感染症などの特別な場合を除く。 5)実技なので白衣着用。手足や背部, 腹部などを出しやすいのが好ましい。 										1週目 ガイダンス, タオル, 危険部位刺鍼	16週目 徒手検査, 背部治療① パルス	2週目 徒手検査, 肩治療① パルス	17週目 徒手検査, 背部治療② 木下式	3週目 徒手検査, 肩治療② パルス	18週目 徒手検査, 上肢治療① パルス	4週目 徒手検査, 肩治療③ 木下式	19週目 徒手検査, 上肢治療② 木下式	5週目 徒手検査, 頸治療① パルス	20週目 三叉神経痛	6週目 徒手検査, 頸治療② 木下式	21週目 頸椎症, 胸郭出口症候群	7週目 徒手検査, 腰治療① パルス	22週目 脊柱管狭窄症, ヘルニア	8週目 徒手検査, 腰下肢治療② パルス	23週目 坐骨神経痛	9週目 徒手検査, 腰治療③ 木下式	24週目 特殊鍼法 円皮鍼	10週目 徒手検査, 腰下肢治療④ 木下式	25週目 特殊鍼法 運動鍼	11週目 徒手検査, 膝治療① パルス	26週目 特殊鍼法 頭皮鍼	12週目 徒手検査, 膝治療② パルス	27週目 特殊鍼法	13週目 徒手検査, 試験概要	28週目 試験概要	14週目 前期末試験	29週目 後期末試験	15週目 試験解説, 膝治療③ 木下式	30週目 試験解説
1週目 ガイダンス, タオル, 危険部位刺鍼	16週目 徒手検査, 背部治療① パルス																																							
2週目 徒手検査, 肩治療① パルス	17週目 徒手検査, 背部治療② 木下式																																							
3週目 徒手検査, 肩治療② パルス	18週目 徒手検査, 上肢治療① パルス																																							
4週目 徒手検査, 肩治療③ 木下式	19週目 徒手検査, 上肢治療② 木下式																																							
5週目 徒手検査, 頸治療① パルス	20週目 三叉神経痛																																							
6週目 徒手検査, 頸治療② 木下式	21週目 頸椎症, 胸郭出口症候群																																							
7週目 徒手検査, 腰治療① パルス	22週目 脊柱管狭窄症, ヘルニア																																							
8週目 徒手検査, 腰下肢治療② パルス	23週目 坐骨神経痛																																							
9週目 徒手検査, 腰治療③ 木下式	24週目 特殊鍼法 円皮鍼																																							
10週目 徒手検査, 腰下肢治療④ 木下式	25週目 特殊鍼法 運動鍼																																							
11週目 徒手検査, 膝治療① パルス	26週目 特殊鍼法 頭皮鍼																																							
12週目 徒手検査, 膝治療② パルス	27週目 特殊鍼法																																							
13週目 徒手検査, 試験概要	28週目 試験概要																																							
14週目 前期末試験	29週目 後期末試験																																							
15週目 試験解説, 膝治療③ 木下式	30週目 試験解説																																							
教科書・参考書等	「臨床医学総論」「臨床医学各論」「リハビリテーション医学」 医歯薬出版株式会社 および 配布プリント																																							
成績評価の方法	1)各学期で実施する期末試験の得点。 2)出席状況, 課題提出など。 上記の項目から総合的に評価。通年の成績が60%以上で単位を認定。																																							
実践的教育に関する経歴等	①鍼師・灸師・あん摩マッサージ指圧師 ②鍼灸マッサージ教員免許 ③鍼灸マッサージ院勤務																																							

鍼灸スポーツ科学科

授業科目名	応用はりきゅう実技Ⅱ			授業形態	講義	教員	南洞 大有		No.	31																														
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	2年生																															
授業概要	鍼灸治療には大きく東洋医学的治療と現代医学的治療に分けられる。この授業では東洋医学的鍼灸治療の四診法から論治までの基礎を学ぶ。																																							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 東洋医学の四診から論治までの基礎を習得する。 2. 要穴表に記載される経穴の使用法を習得する。 3. 各種の配穴法を習得する。 																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 四診合参の基礎</td> <td>第16週目 愈原配穴法①</td> </tr> <tr> <td>第2週目 八綱弁証の四診合参①</td> <td>第17週目 愈原配穴法②</td> </tr> <tr> <td>第3週目 八綱弁証の四診合参②</td> <td>第18週目 原絡配穴法①</td> </tr> <tr> <td>第4週目 鍼灸の補瀉法</td> <td>第19週目 原絡配穴法②</td> </tr> <tr> <td>第5週目 八綱弁証の論治①</td> <td>第20週目 郄募配穴法①</td> </tr> <tr> <td>第6週目 八綱弁証の論治②</td> <td>第21週目 郄募配穴法②</td> </tr> <tr> <td>第7週目 気血津液弁証の四診合参①</td> <td>第22週目 募合配穴法①</td> </tr> <tr> <td>第8週目 気血津液弁証の四診合参②</td> <td>第23週目 募合配穴法②</td> </tr> <tr> <td>第9週目 気血津液弁証の四診合参③</td> <td>第24週目 難経六十九難の配穴法①</td> </tr> <tr> <td>第10週目 気血津液弁証の四診合参④</td> <td>第25週目 難経六十九難の配穴法②</td> </tr> <tr> <td>第11週目 気血津液弁証の論治①</td> <td>第26週目 難経六十九難の配穴法③</td> </tr> <tr> <td>第12週目 気血津液弁証の論治②</td> <td>第27週目 難経六十九難の配穴法④</td> </tr> <tr> <td>第13週目 気血津液弁証の論治③</td> <td>第28週目 八脈交会穴①</td> </tr> <tr> <td>第14週目 気血津液弁証の論治④</td> <td>第29週目 八脈交会穴②</td> </tr> <tr> <td>第15週目 前期期末試験</td> <td>第30週目 後期期末試験</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>(1) 本講義は実技のため、開始時間までに実習室2に白衣着用で集合する事。 (2) 生徒同士で鍼灸を行うので、患者役に白衣内はタンクトップと短パンを着用の事。</p>										第1週目 四診合参の基礎	第16週目 愈原配穴法①	第2週目 八綱弁証の四診合参①	第17週目 愈原配穴法②	第3週目 八綱弁証の四診合参②	第18週目 原絡配穴法①	第4週目 鍼灸の補瀉法	第19週目 原絡配穴法②	第5週目 八綱弁証の論治①	第20週目 郄募配穴法①	第6週目 八綱弁証の論治②	第21週目 郄募配穴法②	第7週目 気血津液弁証の四診合参①	第22週目 募合配穴法①	第8週目 気血津液弁証の四診合参②	第23週目 募合配穴法②	第9週目 気血津液弁証の四診合参③	第24週目 難経六十九難の配穴法①	第10週目 気血津液弁証の四診合参④	第25週目 難経六十九難の配穴法②	第11週目 気血津液弁証の論治①	第26週目 難経六十九難の配穴法③	第12週目 気血津液弁証の論治②	第27週目 難経六十九難の配穴法④	第13週目 気血津液弁証の論治③	第28週目 八脈交会穴①	第14週目 気血津液弁証の論治④	第29週目 八脈交会穴②	第15週目 前期期末試験	第30週目 後期期末試験
第1週目 四診合参の基礎	第16週目 愈原配穴法①																																							
第2週目 八綱弁証の四診合参①	第17週目 愈原配穴法②																																							
第3週目 八綱弁証の四診合参②	第18週目 原絡配穴法①																																							
第4週目 鍼灸の補瀉法	第19週目 原絡配穴法②																																							
第5週目 八綱弁証の論治①	第20週目 郄募配穴法①																																							
第6週目 八綱弁証の論治②	第21週目 郄募配穴法②																																							
第7週目 気血津液弁証の四診合参①	第22週目 募合配穴法①																																							
第8週目 気血津液弁証の四診合参②	第23週目 募合配穴法②																																							
第9週目 気血津液弁証の四診合参③	第24週目 難経六十九難の配穴法①																																							
第10週目 気血津液弁証の四診合参④	第25週目 難経六十九難の配穴法②																																							
第11週目 気血津液弁証の論治①	第26週目 難経六十九難の配穴法③																																							
第12週目 気血津液弁証の論治②	第27週目 難経六十九難の配穴法④																																							
第13週目 気血津液弁証の論治③	第28週目 八脈交会穴①																																							
第14週目 気血津液弁証の論治④	第29週目 八脈交会穴②																																							
第15週目 前期期末試験	第30週目 後期期末試験																																							
教科書・参考書等	教科書: 東洋療法学校協会「新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)」 「新版 東洋医学概論」 「新版 経絡経穴概論」																																							
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 期末試験の得点 2) 出席状況 上記項目から総合的評価して120点以上を合格とする。																																							
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。																																							

鍼灸スポーツ科学科

授業科目名	臨床はりきゅう実技Ⅰ (臨床実習前施術実技試験を含む)		授業形態	実習	教員	善積紗英子		No.	32
科目区分	専門分野	単位	1	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	2年生
授業概要	①鍼灸臨床で特に使用される要穴について、正確に素早く取穴する。 ②取穴した経穴に対して、正確な刺鍼と施灸を行う。 ③検査法の正確な方法とその意義を学ぶ。								
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 指示された、経穴を正確に時間内に取穴できる。 取穴した経穴に対し、正確な刺鍼と施灸を時間内に行うことができる。 症状に対して必要な検査法が行える。 検査法の陽性所見と、その意義を答えることができる。 これらを総合した、臨床実習前施術実技試験に合格する。 								
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 肘、膝より末端の経穴の取穴① 第2週目 肘、膝より末端の経穴の取穴② 第3週目 取穴とその部位への鍼灸実技① 第4週目 取穴とその部位への鍼灸実技② 第5週目 取穴とその部位への鍼灸実技③ 第6週目 取穴とその部位への鍼灸実技④ 第7週目 病的反射、運動失調、髄膜刺激症状の検査法 第8週目 頸部神経根、胸郭出口症候群の徒手検査法 第9週目 肩関節、肘関節、手部の徒手検査法 第10週目 腰下肢の徒手検査法① 第11週目 腰下肢の徒手検査法② 第12週目 膝部の徒手検査法 第13週目 臨床実習前施術実技試験練習① 第14週目 臨床実習前施術実技試験練習② 第15週目 臨床実習前施術実技試験 (授業の方法および自学学習について) プリントを用意。実技室で行う。 基本的に白衣を着用する。 白衣の着用で大腿部の露出が難しい者は半ズボンを用意すること。								
教科書・参考書等	教科書: 新版経絡経穴概論								
成績評価の方法	臨床実習前施術試験を行い評価する。 臨床実習前施術試験の項目は、 1) 取穴と鍼灸実技 2) 徒手検査法 上記2項目から構成され、各項目で60点以上を合格する。 臨床実習に対応する為、ある一定のレベルが必要となる。 各項目の不合格者は、合格するまで再試験を行うものとする。								
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。								

鍼灸スポーツ科学科

授業科目名	臨床実習 I			授業形態	講義	教員	樋口 勝広		No.	33																														
科目区分	専門分野	単位	1	時間	45	期間	通年(30回)	対象学年	2年生																															
授業概要	臨床における医療面②接や身体の診察などの基本的な知識を身に着け、患者さんの応対ができるようになる。																																							
授業の到達目標	臨床における一般入試的な医療面接、診察、検査などの基礎知識を身に着け、実際に患者さんの応対を行い、臨床の一連の流れに触れ、臨床力を身に着ける。																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 医療面接の基礎</td> <td>第16週目 東洋医学的診察を用いての診察 ①</td> </tr> <tr> <td>第2週目 医療面接の基礎</td> <td>第17週目 東洋医学的診察を用いての診察 ②</td> </tr> <tr> <td>第3週目 患者導入と予診表記載</td> <td>第18週目 東洋医学的診察を用いての診察 ③</td> </tr> <tr> <td>第4週目 主訴の把握・症状</td> <td>第19週目 東洋医学的診察を用いての診察 ④</td> </tr> <tr> <td>第5週目 展開・問題の把握</td> <td>第20週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑤</td> </tr> <tr> <td>第6週目 問題の掘り下げ・患者説明モデル</td> <td>第21週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑥</td> </tr> <tr> <td>第7週目 系統的レビューと患者精神状態の把握</td> <td>第22週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑦</td> </tr> <tr> <td>第8週目 既往歴・家族歴・社会歴の聴取</td> <td>第23週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑧</td> </tr> <tr> <td>第9週目 最終要約と確認</td> <td>第24週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ</td> </tr> <tr> <td>第10週目 インフォームドコンセントについて</td> <td>第25週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ</td> </tr> <tr> <td>第11週目 鍼灸治療に関する説明と動悸付け</td> <td>第26週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ</td> </tr> <tr> <td>第12週目 治療計画の調整と誘導について</td> <td>第27週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ</td> </tr> <tr> <td>第13週目 臨床実習医療面接総合評価試験</td> <td>第28週目 検査法を用いての診察・判定</td> </tr> <tr> <td>第14週目 臨床実習医療面接総合評価試験</td> <td>第29週目 検査法を用いての診察・判定</td> </tr> <tr> <td>第15週目 医療面接総合診察</td> <td>第30週目 医療面接総合診察</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習室で授業を行う。 ・毎回小グループ(3~4人)を形成し、相互協力のもと臨床実習を行う。 										第1週目 医療面接の基礎	第16週目 東洋医学的診察を用いての診察 ①	第2週目 医療面接の基礎	第17週目 東洋医学的診察を用いての診察 ②	第3週目 患者導入と予診表記載	第18週目 東洋医学的診察を用いての診察 ③	第4週目 主訴の把握・症状	第19週目 東洋医学的診察を用いての診察 ④	第5週目 展開・問題の把握	第20週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑤	第6週目 問題の掘り下げ・患者説明モデル	第21週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑥	第7週目 系統的レビューと患者精神状態の把握	第22週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑦	第8週目 既往歴・家族歴・社会歴の聴取	第23週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑧	第9週目 最終要約と確認	第24週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ	第10週目 インフォームドコンセントについて	第25週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ	第11週目 鍼灸治療に関する説明と動悸付け	第26週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ	第12週目 治療計画の調整と誘導について	第27週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ	第13週目 臨床実習医療面接総合評価試験	第28週目 検査法を用いての診察・判定	第14週目 臨床実習医療面接総合評価試験	第29週目 検査法を用いての診察・判定	第15週目 医療面接総合診察	第30週目 医療面接総合診察
第1週目 医療面接の基礎	第16週目 東洋医学的診察を用いての診察 ①																																							
第2週目 医療面接の基礎	第17週目 東洋医学的診察を用いての診察 ②																																							
第3週目 患者導入と予診表記載	第18週目 東洋医学的診察を用いての診察 ③																																							
第4週目 主訴の把握・症状	第19週目 東洋医学的診察を用いての診察 ④																																							
第5週目 展開・問題の把握	第20週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑤																																							
第6週目 問題の掘り下げ・患者説明モデル	第21週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑥																																							
第7週目 系統的レビューと患者精神状態の把握	第22週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑦																																							
第8週目 既往歴・家族歴・社会歴の聴取	第23週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑧																																							
第9週目 最終要約と確認	第24週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ																																							
第10週目 インフォームドコンセントについて	第25週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ																																							
第11週目 鍼灸治療に関する説明と動悸付け	第26週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ																																							
第12週目 治療計画の調整と誘導について	第27週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ																																							
第13週目 臨床実習医療面接総合評価試験	第28週目 検査法を用いての診察・判定																																							
第14週目 臨床実習医療面接総合評価試験	第29週目 検査法を用いての診察・判定																																							
第15週目 医療面接総合診察	第30週目 医療面接総合診察																																							
教科書・参考書等	配布プリント及び、配布テキスト																																							
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席点や授業での平常点、前期、後期で臨床実習医療面接総合評価試験、検査法を用いての診察・判定を行い、総合評価とする。 2. 前期評価と後期評価が合計120点以上の者を合格とする。 																																							
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。																																							

鍼灸スポーツ科学科

授業科目名	臨床実習Ⅱ			授業形態	講義	教員	鈴木 亮太		No.	34																														
科目区分	専門分野	単位	1	時間	45	期間	通年(30回)	対象学年	2年生																															
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・各疾患の診察法・治療法を学ぶ。 ・実際に症例を体験し、医療面接から治療までの流れを把握する。 																																							
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各疾患別の医療面接での聴取のポイント、診察に重要な鑑別項目を説明できる。 ・その疾患についての適切な治療法を考え治療できる。 																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 膝周囲痛疾患の治療①</td> <td>第16週目 膝周囲痛の症例～診察～治療①</td> </tr> <tr> <td>第2週目 面接の実践、膝周囲痛疾患の治療②</td> <td>第17週目 膝周囲痛の症例～診察～治療②</td> </tr> <tr> <td>第3週目 面接の実践、膝周囲痛疾患の治療③</td> <td>第18週目 膝周囲痛の症例～診察～治療③</td> </tr> <tr> <td>第4週目 面接の実践、膝周囲痛疾患の治療④</td> <td>第19週目 腰下肢痛の症例～診察～治療①</td> </tr> <tr> <td>第5週目 面接の実践、腰下肢痛疾患の治療①</td> <td>第20週目 腰下肢痛の症例～診察～治療②</td> </tr> <tr> <td>第6週目 面接の実践、腰下肢痛疾患の治療②</td> <td>第21週目 腰下肢痛の症例～診察～治療③</td> </tr> <tr> <td>第7週目 面接の実践、腰下肢痛疾患の治療③</td> <td>第22週目 腰下肢痛の症例～診察～治療④</td> </tr> <tr> <td>第8週目 面接の実践、腰下肢痛疾患の治療④</td> <td>第23週目 上肢痛の症例～診察～治療①</td> </tr> <tr> <td>第9週目 面接の実践、腰下肢痛疾患の治療⑤</td> <td>第24週目 上肢痛の症例～診察～治療②</td> </tr> <tr> <td>第10週目 面接の実践、上肢痛疾患の治療①</td> <td>第25週目 上肢痛の症例～診察～治療③</td> </tr> <tr> <td>第11週目 面接の実践、上肢痛疾患の治療②</td> <td>第26週目 症例に対する診察・治療①</td> </tr> <tr> <td>第12週目 面接の実践、上肢痛疾患の治療③</td> <td>第27週目 症例に対する診察・治療②</td> </tr> <tr> <td>第13週目 面接の実践、症例に対する治療</td> <td>第28週目 症例に対する診察・治療③</td> </tr> <tr> <td>第14週目 診察の評価</td> <td>第29週目 診察の評価</td> </tr> <tr> <td>第15週目 診察の評価</td> <td>第30週目 診察の評価</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回小グループ(3～4人)を形成し、相互協力のもと臨床実習を行う。 										第1週目 膝周囲痛疾患の治療①	第16週目 膝周囲痛の症例～診察～治療①	第2週目 面接の実践、膝周囲痛疾患の治療②	第17週目 膝周囲痛の症例～診察～治療②	第3週目 面接の実践、膝周囲痛疾患の治療③	第18週目 膝周囲痛の症例～診察～治療③	第4週目 面接の実践、膝周囲痛疾患の治療④	第19週目 腰下肢痛の症例～診察～治療①	第5週目 面接の実践、腰下肢痛疾患の治療①	第20週目 腰下肢痛の症例～診察～治療②	第6週目 面接の実践、腰下肢痛疾患の治療②	第21週目 腰下肢痛の症例～診察～治療③	第7週目 面接の実践、腰下肢痛疾患の治療③	第22週目 腰下肢痛の症例～診察～治療④	第8週目 面接の実践、腰下肢痛疾患の治療④	第23週目 上肢痛の症例～診察～治療①	第9週目 面接の実践、腰下肢痛疾患の治療⑤	第24週目 上肢痛の症例～診察～治療②	第10週目 面接の実践、上肢痛疾患の治療①	第25週目 上肢痛の症例～診察～治療③	第11週目 面接の実践、上肢痛疾患の治療②	第26週目 症例に対する診察・治療①	第12週目 面接の実践、上肢痛疾患の治療③	第27週目 症例に対する診察・治療②	第13週目 面接の実践、症例に対する治療	第28週目 症例に対する診察・治療③	第14週目 診察の評価	第29週目 診察の評価	第15週目 診察の評価	第30週目 診察の評価
第1週目 膝周囲痛疾患の治療①	第16週目 膝周囲痛の症例～診察～治療①																																							
第2週目 面接の実践、膝周囲痛疾患の治療②	第17週目 膝周囲痛の症例～診察～治療②																																							
第3週目 面接の実践、膝周囲痛疾患の治療③	第18週目 膝周囲痛の症例～診察～治療③																																							
第4週目 面接の実践、膝周囲痛疾患の治療④	第19週目 腰下肢痛の症例～診察～治療①																																							
第5週目 面接の実践、腰下肢痛疾患の治療①	第20週目 腰下肢痛の症例～診察～治療②																																							
第6週目 面接の実践、腰下肢痛疾患の治療②	第21週目 腰下肢痛の症例～診察～治療③																																							
第7週目 面接の実践、腰下肢痛疾患の治療③	第22週目 腰下肢痛の症例～診察～治療④																																							
第8週目 面接の実践、腰下肢痛疾患の治療④	第23週目 上肢痛の症例～診察～治療①																																							
第9週目 面接の実践、腰下肢痛疾患の治療⑤	第24週目 上肢痛の症例～診察～治療②																																							
第10週目 面接の実践、上肢痛疾患の治療①	第25週目 上肢痛の症例～診察～治療③																																							
第11週目 面接の実践、上肢痛疾患の治療②	第26週目 症例に対する診察・治療①																																							
第12週目 面接の実践、上肢痛疾患の治療③	第27週目 症例に対する診察・治療②																																							
第13週目 面接の実践、症例に対する治療	第28週目 症例に対する診察・治療③																																							
第14週目 診察の評価	第29週目 診察の評価																																							
第15週目 診察の評価	第30週目 診察の評価																																							
教科書・参考書等	<p>必要に応じてプリントを配布する。</p> <p>参考図書: 文光堂「鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ」</p>																																							
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回その日の内容を、臨床実習記録簿に記載し、提出する。欠席や未提出、不備等があった場合には総合評価より減点する。詳細は臨床実習記録簿に記載。 2. 前期、後期それぞれ、到達度試験があり、その評価と臨床実習記録簿記載評価、授業への取り組み姿勢等により評価を行う。 																																							
実践的教育に関する経歴等	<p>鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。</p>																																							

鍼灸スポーツ科学科

授業科目名	アスレチックトレーニング			授業形態	講義	教員	早坂ひとみ		No.	35																																																												
科目区分	選択必修科目	単位	4	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	2年生																																																													
授業概要	アスレチックトレーニング及びアスレチックトレーナーの任務と役割、具体的な業務内容について学ぶ。サポートスタッフ、メディカルスタッフの構成メンバーとその役割について学ぶ。スポーツの組織とその運営について学ぶ。																																																																					
授業の到達目標	アスレチックトレーニング及びアスレチックトレーナーの任務、役割、具体的な業務について学ぶ。コーチ、スポーツドクターの役割とアスレチックトレーナーとの連携について理解し、状況に応じて、行動、正しく判断できるようになる。アスリートに対して、サポートを行うための知識を身につけ、実践できるようになる。																																																																					
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目</td> <td>アスレチックトレーニングとは</td> <td>第16週目</td> <td>防具、補装具 理論:テーピング</td> </tr> <tr> <td>第2週目</td> <td>アスレチックトレーナーの業務: ①スポーツ外傷・障害(分類、メカニズム)②外傷・障害の評価</td> <td>第17週目</td> <td>防具、補装具 理論及び実技:テーピング(手関節、指関節)</td> </tr> <tr> <td>第3週目</td> <td>アスレチックトレーナーの業務:①スポーツ現場における救急処置 ②スポーツ外傷・障害の予防と防具</td> <td>第18週目</td> <td>防具、補装具 実技:テーピング(アーチ、踵部、足底)</td> </tr> <tr> <td>第4週目</td> <td>アスレチックトレーナーの業務:①アスレチックリハビリテーション ②コンディショニング</td> <td>第19週目</td> <td>防具、補装具 実技:テーピング(足関節)</td> </tr> <tr> <td>第5週目</td> <td>アスレチックトレーナーの業務:測定と評価</td> <td>第20週目</td> <td>防具、補装具 実技:テーピング(下腿、アキレス腱)</td> </tr> <tr> <td>第6週目</td> <td>測定と評価 実技:姿勢</td> <td>第21週目</td> <td>防具、補装具 理論及び実技:テーピング(膝関節)</td> </tr> <tr> <td>第7週目</td> <td>測定と評価 実技:関節弛緩性、周径囲</td> <td>第22週目</td> <td>防具、補装具 実技:テーピング(肘関節)</td> </tr> <tr> <td>第8週目</td> <td>測定と評価 実技:タイトネス</td> <td>第23週目</td> <td>防具、補装具 実技:テーピング 復習</td> </tr> <tr> <td>第9週目</td> <td>測定と評価 実技:アライメント</td> <td>第24週目</td> <td>防具、補装具 実技:テーピング 復習</td> </tr> <tr> <td>第10週目</td> <td>測定と評価 実技:アライメント</td> <td>第25週目</td> <td>テーピング 実技テスト</td> </tr> <tr> <td>第11週目</td> <td>アスレチックトレーナーの業務: ①健康管理 ②組織運営 ③教育的指導</td> <td>第26週目</td> <td>部位別傷害:下肢</td> </tr> <tr> <td>第12週目</td> <td>ドーピング</td> <td>第27週目</td> <td>部位別傷害:体幹</td> </tr> <tr> <td>第13週目</td> <td>熱中症、食事、水分補給</td> <td>第28週目</td> <td>部位別傷害:上肢</td> </tr> <tr> <td>第14週目</td> <td>前期期末テスト</td> <td>第29週目</td> <td>後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目</td> <td>後期期末試験の解答</td> <td>第30週目</td> <td>後期期末試験の解答</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>事前に配布された資料を精読しておく。 授業後、特に実技に関しては、理論を熟知し、実際に測定、テーピング出来るよう学習する。 ※講義進行中にテーピングやトレーニング法などの実技を取り入れて実施する場合もあるので、動きやすい服装で参加すること。 ※必要なテーピングの種類や実施時期については授業内で説明する。</p>										第1週目	アスレチックトレーニングとは	第16週目	防具、補装具 理論:テーピング	第2週目	アスレチックトレーナーの業務: ①スポーツ外傷・障害(分類、メカニズム)②外傷・障害の評価	第17週目	防具、補装具 理論及び実技:テーピング(手関節、指関節)	第3週目	アスレチックトレーナーの業務:①スポーツ現場における救急処置 ②スポーツ外傷・障害の予防と防具	第18週目	防具、補装具 実技:テーピング(アーチ、踵部、足底)	第4週目	アスレチックトレーナーの業務:①アスレチックリハビリテーション ②コンディショニング	第19週目	防具、補装具 実技:テーピング(足関節)	第5週目	アスレチックトレーナーの業務:測定と評価	第20週目	防具、補装具 実技:テーピング(下腿、アキレス腱)	第6週目	測定と評価 実技:姿勢	第21週目	防具、補装具 理論及び実技:テーピング(膝関節)	第7週目	測定と評価 実技:関節弛緩性、周径囲	第22週目	防具、補装具 実技:テーピング(肘関節)	第8週目	測定と評価 実技:タイトネス	第23週目	防具、補装具 実技:テーピング 復習	第9週目	測定と評価 実技:アライメント	第24週目	防具、補装具 実技:テーピング 復習	第10週目	測定と評価 実技:アライメント	第25週目	テーピング 実技テスト	第11週目	アスレチックトレーナーの業務: ①健康管理 ②組織運営 ③教育的指導	第26週目	部位別傷害:下肢	第12週目	ドーピング	第27週目	部位別傷害:体幹	第13週目	熱中症、食事、水分補給	第28週目	部位別傷害:上肢	第14週目	前期期末テスト	第29週目	後期期末試験	第15週目	後期期末試験の解答	第30週目	後期期末試験の解答
第1週目	アスレチックトレーニングとは	第16週目	防具、補装具 理論:テーピング																																																																			
第2週目	アスレチックトレーナーの業務: ①スポーツ外傷・障害(分類、メカニズム)②外傷・障害の評価	第17週目	防具、補装具 理論及び実技:テーピング(手関節、指関節)																																																																			
第3週目	アスレチックトレーナーの業務:①スポーツ現場における救急処置 ②スポーツ外傷・障害の予防と防具	第18週目	防具、補装具 実技:テーピング(アーチ、踵部、足底)																																																																			
第4週目	アスレチックトレーナーの業務:①アスレチックリハビリテーション ②コンディショニング	第19週目	防具、補装具 実技:テーピング(足関節)																																																																			
第5週目	アスレチックトレーナーの業務:測定と評価	第20週目	防具、補装具 実技:テーピング(下腿、アキレス腱)																																																																			
第6週目	測定と評価 実技:姿勢	第21週目	防具、補装具 理論及び実技:テーピング(膝関節)																																																																			
第7週目	測定と評価 実技:関節弛緩性、周径囲	第22週目	防具、補装具 実技:テーピング(肘関節)																																																																			
第8週目	測定と評価 実技:タイトネス	第23週目	防具、補装具 実技:テーピング 復習																																																																			
第9週目	測定と評価 実技:アライメント	第24週目	防具、補装具 実技:テーピング 復習																																																																			
第10週目	測定と評価 実技:アライメント	第25週目	テーピング 実技テスト																																																																			
第11週目	アスレチックトレーナーの業務: ①健康管理 ②組織運営 ③教育的指導	第26週目	部位別傷害:下肢																																																																			
第12週目	ドーピング	第27週目	部位別傷害:体幹																																																																			
第13週目	熱中症、食事、水分補給	第28週目	部位別傷害:上肢																																																																			
第14週目	前期期末テスト	第29週目	後期期末試験																																																																			
第15週目	後期期末試験の解答	第30週目	後期期末試験の解答																																																																			
教科書・参考書等	①財団法人 日本スポーツ協会公認アスレチックトレーナー 専門科目テキスト1 アスレチックトレーナーの役割 ②財団法人 日本スポーツ協会公認アスレチックトレーナー 専門科目テキスト6 予防とコンディショニング ③配布資料																																																																					
成績評価の方法	期末テストで通年成績を120点以上とする																																																																					
実践的教育に関する経歴等	①柔道整復師、②接骨院開設、③JATI-AATI、④NSCA-CPT、⑤日本赤十字社救急法指導員 ⑥高校レスリング部トレーナー、⑦高校男子バスケットボール部トレーナー、⑧山形県国体チームトレーナー																																																																					